

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	運動療育サトスポキッズ		公表日 2025年 4月 28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・最大利用時は同時刻3名までに行っているためスペースとの関係は適切。	・週に1度以上は子ども同士、スタッフとの接触がヒヤリハットにあがっている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	・マンツーマンで対応できる定員数と配置を行っているうえで、危険を伴う場合は複数人で対応出来ている。	・配置数は満たしているが、子どもの特性を踏まえると、スタッフの人数と利用予約の入っている子どもの人数が不適切な時間も時々あるように感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・2名以上の利用時は部屋をロープやマットで半分に分けて視覚的にわかりやすくテリトリ分けをしている。特性に応じ、絵カードの数や種別を変更している。 ・絵カードやデジタル時計、物が少ない空間など配慮を行っている。	・ビルの構造上、修正は難しいが、入室までの段差は課題なので、スロープの準備等を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日の掃除、換気を行い、活動前後の整理整頓を心がけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・必要に応じて部屋を分ける等の工夫を行っている。 ・マットで仕切るなど、個別で活動出来るよう配慮を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・気づいたことや活動内容を記録に残し、次の活動までに確認し合い、次の目標については会議を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・毎年評価表の記入を保護者の方にしていただき、その内容を業務改善につなげている。	・評価表の結果から、取り組み内容の周知をさらに徹底していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・会議だけでなく、状況に応じて意見を把握出来るようにしており、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	・外部から月に一度理学療法士の方をアドバイザーとして活動を見てもらい、振り返りを受けている。	・今後は理学療法士だけでなく、作業療法士のアドバイスも受ける予定。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・内部・外部研修を定期的に行っている。	・来年度e-ラーニングの受講を予定しており、さらに研修の機会を設ける予定。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・今年度皆で会議を重ね、支援プログラムの作成及びHPでの公表を行い、いつでも保護者の方が見られるように室内に掲示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・定期的のアセスメント、モニタリングを行っている。支援会議にて計画について話し合い、計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・支援会議の際に誰か一人の意見だけでなく、参加者全員の意見を取り入れるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・各々がいつでも見られるように棚に保管している。支援についても計画に基づき行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・様々なアセスメントを用いて、利用時の様子や状況を把握するよう掛けている。 ・活動での様子だけでなく、保護者への聞き取りなども行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・ガイドラインに基づいた内容になっている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・活動プログラムを他のスタッフに相談し、意見を出し合いながら立案を行っている。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・担当指導員を固定化しないようにしている。 ・本人の好きな活動だけでなく、指導員側からも活動課題を提案し、同じ活動が続かないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		・基本的な個別活動に加えて、個々の状況に合わせて集団活動の提案を行っている。イベントを開催し、他者と関わる機会を増やしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・前日には担当を決め、記録を見て気になることがあれば相談するようにしている。 ・当日朝、役割分担を確認するための会議を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・その日行った支援の振り返りはサービス提供終了後に行い、ヒヤリハット等も合わせて確認するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・記録は必ず取り、それを基に毎回取り組む運動を考え、提供するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・半年に一回モニタリングを行い、支援計画を作成している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	・適切な職員が担当者会議に積極的に参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・必要や要請があれば、すぐに連携を行える体制を整えている。	・医療機関との連携は直接行わず、保護者の方を経由している。
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	・相談支援員を通して情報共有を行うことはある。	・会議等の機会があれば参画できる体制を整えている。
	27	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	・研修など受け取れる情報等は積極的に受けようとしている。	・定期的な連携が必要。今後も研修等があれば参加を検討する。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	・誰でも参加出来るイベントの企画なども行っている。	
	29	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・基本は保護者の方に送迎をお願いしているので、活動を見守ってくれることが多く、コミュニケーションを取れる機会も多い。 ・利用ごとにその日の様子や最近の出来事について保護者の方と話し合っている。	
30	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・情報提供を行ったり、ペアレント・トレーニングや、子育てに関する保護者会などを開催している。		
保護者への説明等	31	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・契約時に丁寧な説明を行うようにしている。	
	32	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・すべて行っている。	
	33	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・保護者に内容を説明したうえで、同意を得ている。	
	34	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・地域住民の方にも参加していただけるイベントの開催を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		・保護者会やきょうだい参加ができるようなイベントも企画し、周知している。	
	36	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・時間を決定し、面談、助言を行うこともあれば、利用時に相談に乗ることもある。	
	37	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・各種SNSを使い、情報発信を行なっている。 ・定期的に通信を出している。	

	38	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・鍵付きの棚で保管するようにしている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・子どもに対しては特性に合わせた配慮を行っている。 ・保護者の方との意思の疎通も積極的に行うため、SNS、書面、個別の声掛け等情報伝達を様々な方法にて行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		・地域住民の方にも参加していただけるイベントの開催を行っている。	
非常時等の対応	41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルは保護者の方の見える場所に設置して、訓練も実施している。	
	42	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・策定し、年に2回訓練（利用児も一緒に）を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・アセスメントにて事前に確認を行い、来所までの本人の状況を保護者の方と情報共有しながら支援している。	
	44	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・安全計画の作成や研修、訓練を行ったうえで、安全に支援を行っている。	
	45	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・マニュアルを作成し、提示している。	・マニュアルを見ている人や掲示されていることを知っている人は少ないと感じるため、周知の仕方等工夫を検討する。
	46	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・サービス提供終了後、活動を振り返り、ヒヤリハットがあったか確認している。	
	47	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・虐待防止委員会が中心となって年に2回以上虐待についての研修を行うように設定している。	
48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	3	・組織的に決定出来ているも、記載該当者がいないため計画には未記入。		